

「吉村虎太郎の襯衣（肌襦袢）」をめぐって（その5）

（連載全6回）

附 徳富蘇峰筆「吉村重郷 襯衣 盡忠報國」極め箱①

1. 状況

西尾家において「吉村虎太郎の襯衣（肌襦袢）」を4分の1の大きさに折りたたんで保管するために設えられた桐箱の蓋甲と蓋裏にそれぞれ、徳富蘇峰による箱書きがあります。附として併せて、市指定文化財に指定されました。

2. 寸法

幅 30・0 cm
長 36・1 cm
高 6・2 cm

3. 箱書き

〔蓋甲〕（図1）

盡忠報國

昭和癸酉 孟春
蘇峰菅正敬

恭俊

〔蓋裏〕（図2）

天誅組領袖土州

吉村重郷先生

血染襯衣須珠

襲寶重云尔

昭和癸酉 孟春 蘇峰 正敬頌

4. 解題

〔蓋甲〕 盡忠報國 顏之儀傳・『宋史』岳飛傳。南宋の名將岳飛（1103～1142）が母親により、背に「盡忠報國」と刺青を入られた故事が有名。

昭和癸酉 昭和8年（1933）

孟春 春の初め、1月下旬～3月上旬。3月の季語。

蘇峰 徳富蘇峰

菅（原）正敬 すがわらしようけい。徳富蘇峰の筆名。

恭俊 こんしゅん。人に対しては恭しくし、自分の身においては慎ましくすること。

〔蓋裏〕

領袖 領袖 魏舒傳。えりとそでとは人目に立つ

ところから、人を率いてその長となる人物。ある集団の中の主となる人物。

土州 土佐

吉村重郷 吉村虎太郎の諱。

襯衣 音シンイ。訓シャツ。（指南書）したぎ。

襲 音チヨウ・ジヨウ。訓ころも・かさねころも。

須珠 世界を中心にする最高級の衣の意か。

寶重（中文） 貴重視する・高く評価する。

云尔（爾） 音うんじ。訓しかい・のみ。漢文で、

文章の終わりに用いて、これにほかならない、という意味を表す語。

昭和癸酉 孟春 蘇峰 正敬 蓋甲に同じ。

頌 音シヨウ・ジユ。訓ほめ（る）・たた（える）。



図1 蓋甲の箱書き



図2 蓋裏の箱書き

（次号に続く）

■問い合わせ先 文化財課 ☎60・1608